

CITIZEN

2024年度（2025年3月期）
第2四半期決算説明会

シチズン時計株式会社

2024年11月11日

第2四半期累計（4-9月）	連結業績概要	4
	セグメント別業績概要	5
第2四半期累計（7-9月）	連結業績概要	6
	セグメント別業績概要	7
	時計事業	8
	工作機械事業	13
	デバイス事業	16
下期及び通期連結	連結業績予想	18
	セグメント別業績予想	19

広報IR担当の古川でございます。

それでは、2024年度第2四半期決算につきまして、ご説明させていただきます。

2024年度第2四半期業績



第2四半期（4-9月）増収減益

(単位：億円)	2023年度 上期実績	2024年度 上期実績	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	1,529	1,565	+35	+2.3%
営業利益	135	123	▲12	▲9.0%
営業利益率	8.9%	7.9%	-	-
経常利益	174	122	▲51	▲29.6%
親会社株主に帰属する 中間純利益	133	122	▲11	▲8.3%
為替レート	¥139/USD ¥152/EUR	¥154/USD ¥167/EUR		

4

第2四半期累計期間のPLの概要になっております。

売上高は1,565億円。為替の後押しもありましたが、時計事業が堅調に推移するなど、前年比2.3%の増収となりました。

一方、営業利益は、時計事業の宣伝費の増加や工作機械事業の減収等によりまして、123億円と前年比9.0%の減益となりました。

経常利益は為替差損が計上されたこともあり、122億円と前年比29.6%の減益。

それから、親会社株主に帰属する中間純利益につきましては122億円と、投資有価証券売却益がありましたが、前年比8.3%の減益となりました。

2024年度第2四半期累計（4-9月）セグメント別業績概要

(単位：億円 / %：営業利益率)

売上高	2023年度	2024年度	前年同期比		セグメント	業績
	2Q累計実績	2Q累計実績	増減額	増減率		
時計事業	785	847	+62	+7.9%	■ 時計事業	【増収減益】
工作機械事業	414	373	▲40	▲9.7%	■ 工作機械事業	【減収減益】
デバイス事業	221	207	▲14	▲6.4%	■ デバイス事業	【減収増益】
電子機器他事業	107	136	+28	+26.3%	■ 電子機器他事業	【増収増益】
合計	1,529	1,565	+35	+2.3%		
営業利益						
時計事業	102 (13.0%)	94 (11.2%)	▲7	▲7.0%		
工作機械事業	52 (12.6%)	30 (8.1%)	▲22	▲42.2%		
デバイス事業	4 (1.8%)	5 (2.8%)	+1	+44.9%		
電子機器他事業	6 (6.3%)	23 (17.4%)	+16	+250.0%		
消去又は全社	▲29	▲31	▲1	-		
合計	135 (8.9%)	123 (7.9%)	▲12	▲9.0%		

5

事業セグメント別の業績の内訳となっております。

時計事業は増収減益、工作機械事業は減収減益、デバイス事業は減収増益、電子機器他事業は増収増益となりました。

後ほど、主要事業の概況をご説明いたしますが、電子機器事業について触れておきますと、主にフォトプリンターの高機能新製品の売上が想定を上回り、計画比大幅に上振れをいたしました。

第2四半期（7-9月） 増収減益

(単位：億円)	2023年度	2024年度	前年同期比	
	2Q(7-9月)実績	2Q(7-9月)実績	増減額	増減率
売上高	802	806	+3	+0.5%
営業利益	80	76	▲3	▲4.5%
営業利益率	10.0%	9.5%	-	-
経常利益	94	49	▲44	▲47.8%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	71	37	▲33	▲47.4%
為替レート	¥144/USD ¥157/EUR	¥153/USD ¥166/EUR		

6

続いて、第2四半期、3カ月間の連結業績についてご説明いたします。

売上高は、806億円、0.5%の増収。

営業利益は、76億円、4.5%の減益、営業利益率は9.5%でした。

経常利益は49億円と為替差損が影響しまして、前年比47.8%の減益、親会社株主に帰属する四半期純利益は37億円と前年比47.4%の減益となりました。

2024年度第2四半期（7-9月）セグメント別業績概要

(単位：億円 / %：営業利益率)

売上高	2023年度	2024年度	前年同期比		セグメント	業績
	2Q(7-9月)実績	2Q(7-9月)実績	増減額	増減率		
時計事業	414	436	+21	+5.2%	■ 時計事業	【増収増益】
工作機械事業	219	194	▲24	▲11.1%	■ 工作機械事業	【減収減益】
デバイス事業	113	102	▲10	▲9.0%	■ デバイス事業	【減収減益】
電子機器他事業	55	72	+16	+30.4%	■ 電子機器他事業	【増収増益】
合計	802	806	+3	+0.5%		
営業利益						
時計事業	56 (13.7%)	58 (13.4%)	+1	+3.0%		
工作機械事業	28 (13.1%)	17 (8.8%)	▲11	▲40.8%		
デバイス事業	3 (3.1%)	1 (1.6%)	▲1	▲54.1%		
電子機器他事業	5 (9.4%)	14 (20.6%)	+9	+185.5%		
消去又は全社	▲14	▲15	▲1	-		
合計	80 (10.0%)	76 (9.5%)	▲3	▲4.5%		

7

事業セグメント別の業績の内訳です。

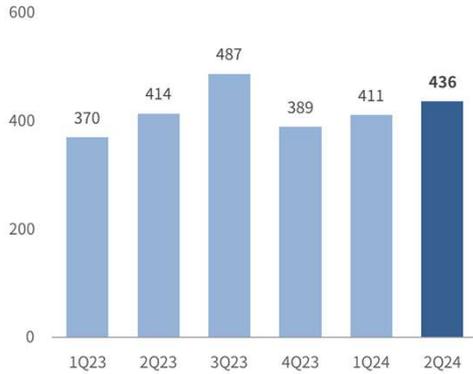
時計事業は増収増益、工作機械事業は減収減益、デバイス事業は減収減益、電子機器他事業は増収増益となっております。

それでは、セグメント別の概況をご説明いたします。

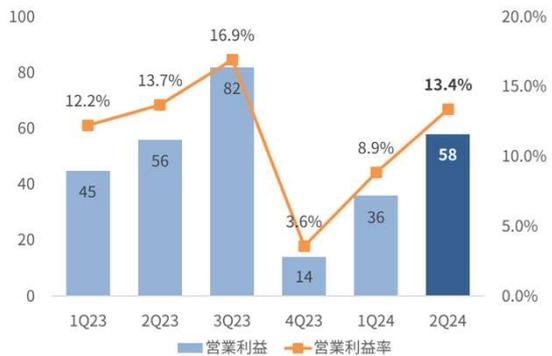
第2四半期（7-9月） 増収増益

- 完成品 国内市場は主要ブランドの販売が好調に推移したほかインバウンド需要も伸長し、増収
海外市場はアジアが中国の市況悪化などにより販売が低迷するも欧米が堅調さを保ち、増収
- ムーブメント アナログクォーツムーブメントに弱含んだ動きが見られたほか、
機械式ムーブメントも中国の市況の低迷から購買に慎重さが見られ、減収

売上高 (億円)



営業利益 (億円)・営業利益率



まず、時計事業です。

売上高は436億円、5.2%の増収、営業利益は58億円、3.0%の増益となりました。

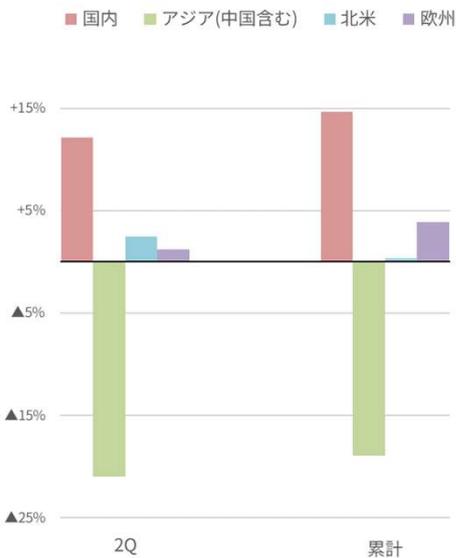
こちらは第2四半期、3カ月間の概況となっております。

完成品販売につきましては、国内市場において、『ATTESA』などの主力商品に加え、『The CITIZEN』などのプレミアムブランドの販売が好調に推移したほか、インバウンド需要も伸長したことにより増収となりました。

海外市場は、アジアが中国の市況悪化などにより販売が低迷いたしましたが、欧米が堅調さを保ち、増収となりました。

ムーブメント販売につきましては、アナログクォーツムーブメントの需要回復に停滞感が見られたほか、第1四半期に好調でありました機械式ムーブメントにつきましても、欧米顧客向けは順調に売り上げておりますが、中国顧客向けの需要の低迷がみられ、減収となりました。

前年同期比増減率（現地通貨ベース）



地域別販売状況（7-9月）

地域	前年同期比	詳細
国内	【増収】	『ATTESA』や『xC』などの中核ブランドに加え『The CITIZEN』などのプレミアムブランドが好調 インバウンド需要が伸長
アジア(中国含む)	【減収】	中国は市況悪化に伴い販売が大幅減 タイなど一部市場に回復傾向
北米	【増収】	宝飾チェーン・百貨店が堅調さを維持
欧州	【微増】	イギリスやフランスなどが堅調に推移

こちらは、現地通貨ベースの地域別売上高の伸び率です。

左の棒グラフが第2四半期、3カ月間の状況となっておりますので、こちらのコメントをさせていただきますと

赤色の国内は、『ATTESA』、『xC』、『The CITIZEN』などの販売が好調に推移し、増収となりました。

緑色のアジアは、タイなどの一部市場で回復傾向が伺えたものの、中国の市況悪化の影響を受け、販売が大きく減少しました。

青色の北米は、主力流通である宝飾チェーン・百貨店向けなどに加え、専門店向けの販売が堅調さを保ち、増収となりました。

紫色の欧州は、イギリスやフランスなどが堅調に推移したことで、微増となっております。

「The Essence of Time」 | 「CITIZEN」ブランド時計100周年記念イベント

- 1924年に初めて「CITIZEN」の名を冠した懐中時計を作り上げてから今年で100年。シチズンの軌跡・信念・未来へのビジョンを伝えるイベントを東京、ニューヨーク、パリの3都市で開催



開催都市：東京
期 間：6月20日～6月22日



開催都市：ニューヨーク
期 間：7月22日～7月25日



開催都市：パリ
期 間：10月8日～10月9日

続いて時計事業のトピックスになりますが、今年は、「CITIZEN」ブランドの時計が誕生してから100年という節目の年になっております。

「時計の本質」を追求し、シチズンの在り方をお伝えするイベント、「The Essence of Time」を東京、ニューヨーク、パリの3都市で開催いたしました。

メディアを中心に多くの方にご来場をいただきまして、好評を頂くと共に、来場者の方々を通じて多くの発信をすることができました。

『シチズン シリーズエイト』 「CITIZEN」ブランド時計 100周年 限定モデル

- 「CITIZEN」ブランド時計 100周年を記念した880 Mechanicalの限定モデル
- 印象的なブルーのグラデーションをかけた白蝶貝の文字板に、2体構造のケースを活かし、グレーとブルーを組み合わせたデザインを採用

Series8



発売日 : 2024年9月12日
価格 : 希望小売価格 275,000 円(税込)
限定数量 : 世界限定2,200本

11

こちらは新商品のご紹介になります。

機械式時計ブランドである『シチズン シリーズエイト』より、「CITIZEN」ブランド時計 100周年を記念した限定モデルを発売いたしました。

文字板にはブルーのグラデーションをかけた白蝶貝を使用し、2体構造のセンターケースのそれぞれのパーツに、グレーとブルーの異なるカラーを組み合わせることで、『シチズン シリーズエイト』らしいケース構造の魅力を表現しています。

こちらは、9月12日に発売しまして、当社からの出荷ベースでは国内分の数量は完売となっております。

『CITIZEN L』スズランをモチーフにしたシリーズからミニサイズが登場

- スズランモチーフのデザインで、ベゼルに39ポイントのダイヤモンドをあしらった3モデル
- バンドを簡単に付け替えることのできるインターチェンジャブル構造を採用

CITIZEN *L*



発売日 : 2024年9月5日
価 格 : 希望小売価格 99,000 円~121,000 円(税込)
モデル : 3モデル

12

『CITIZEN L』です。

2023年度より本格的にグローバル展開を行っている『CITIZEN L』より、人気のスズランをモチーフにしたシリーズから、ミニサイズの新商品を発売いたしました。

ベゼルに39ポイントのダイヤモンドをあしらっており、バンドを簡単に付け替えることのできるインターチェンジャブル構造を採用しております。

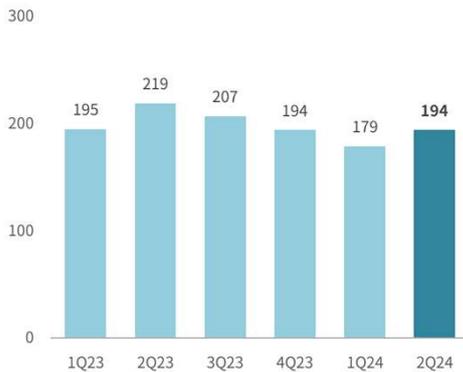
国内、北米、欧州、アジアでのグローバル展開が順調に進みまして、売上も好調な滑り出しを見せています。

サステナブルレディスウォッチとして、取り組みを強化してまいります。

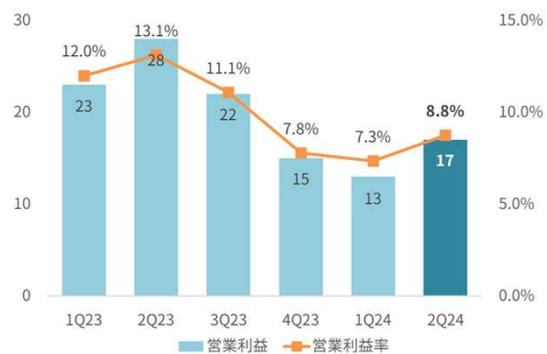
第2四半期（7-9月） 減収減益

- 国内市場 設備投資への慎重姿勢が継続する中、主に自動車関連の需要が回復せず、減収
- 海外市場 アジアは中国で販売が増加したものの
欧米において医療関連を除く設備投資意欲が限定的となり、減収

売上高 (億円)



営業利益 (億円)・営業利益率



13

次に工作機械事業です。

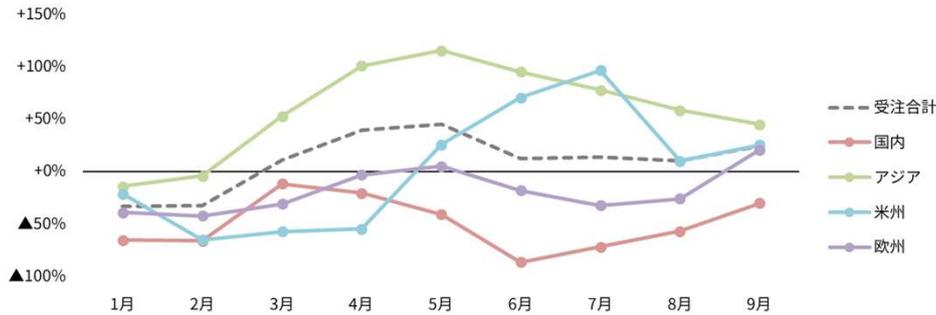
売上高は194億円、11.1%の減収、営業利益は17億円、40.8%の減益となりました。

国内は、設備投資への慎重姿勢が継続する中、主に自動車関連の需要が回復せず、減収となりました。

海外につきましては、アジアにおいて中国で販売が増加したものの、欧米では、好調な医療関連以外の設備投資意欲が限定的となり、減収となりました。

前年比では、国内向け販売が減少し、中国向け販売が増加するなど売上高の地域構成が変化したこともありまして、製品ミックスが悪化したことが減益の主要因となっております。

3カ月移動平均受注台数 前年同月比増減率の推移



地域別の第2四半期（7-9月）の受注台数の状況（前年同期比）

● 受注合計	+25%	
● 国内	▲30%	自動車関連が低迷したほか、半導体関連なども様子見姿勢が継続
● アジア	+45%	インドは堅調が続き、中国では全体的に想定よりも早期回復となった
● 米州	+25%	医療関連を中心に受注堅調が続き増加
● 欧州	+20%	自動車関連は厳しい状況が続くも、医療関連で受注が増加

こちらは、地域別の受注状況です。折れ線グラフは、受注台数の3カ月移動平均の前年同月比の増減率です。

黒の破線が受注の合計を表しておりまして、全体では緩やかな回復基調が継続しています。

下の表は第2四半期の前年同期比の受注の状況です。受注台数の合計は前年比25%増となりました。地域別にみますと、

国内は、自動車関連の設備投資への慎重姿勢が継続しているほか、半導体関連なども様子見姿勢が続いており、前年比30%減となりました。

アジアは、インドで引き合いが堅調に推移したほか、中国では補助金効果もありまして受注が増加し、前年比45%増となりました。

米国は、医療関連を中心に受注が堅調さを保ち、前年比25%増となりました。

欧州は、自動車関連の投資が回復しない状況ですが、医療向けなどの受注が増加し、前年比20%増となっております。

ベトナム工場においてグローバル生産体制の効率化に向け、加工棟を建設

- 2025年3月に着工し、竣工は2025年8月を予定しており、順次加工設備を導入
- 生産効率の向上と生産リードタイムの短縮を実施



ベトナム工場に新設される加工棟（赤枠内）

- 内 容：鋳物の加工能力を2倍に増強(2023年度比)
- 延床面積：4,390 m²
- 竣工予定：2025年8月

15

工作機械事業のトピックスとなります。

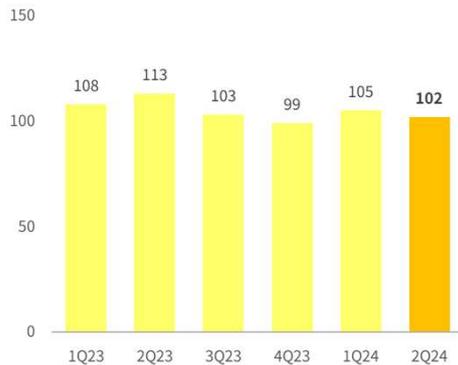
シンコムブランドの鋳物を製造するベトナム工場内に、新たに加工棟を建設いたします。

これまで、ベトナム工場の加工能力が不足しており、鋳造した鋳物の4割程度を日本に移送して加工を行っておりましたが、今回の加工棟の増設により、ベトナム工場において、大部分の加工を担える見込みとなっており、生産効率の向上とリードタイムの短縮を図ってまいります。

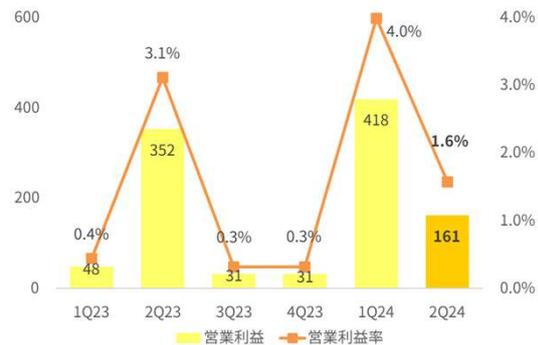
第2四半期（7-9月） 減収減益

- 自動車部品 国内市場は売上減となるも海外市場が底堅く推移し、前年並み
- 小型モーター 顧客の在庫調整などの影響を受け、減収
- 他デバイス オプトデバイスは収益性の改善を図るも、水晶デバイスなどが需要低迷により減収

売上高 (億円)



営業利益 (百万円)・営業利益率



16

最後に、デバイス事業です。

売上高は102億円、9.0%の減収、営業利益は1億円と減益になりました。

自動車部品につきましては、海外市場を中心に底堅く推移したものの、国内向けが減収となり、前年並みの売上となりました。

小型モーターは、顧客の在庫調整などの影響を受けまして、売上は前年比で若干下回りました。

その他のデバイス製品は、オプトデバイスは売上微増となり黒字となりましたが、水晶デバイスなどが減収となっております。

2024年度下期及び通期連結業績予想



2024年度通期業績予想

(単位：億円)	2024年度 5/13予想		2024年度 11/11予想		増減額		増減率	
	下期	通期	下期	通期	下期	通期	下期	通期
売上高	1,590	3,100	1,569	3,135	▲20	+35	▲1.3%	+1.1%
営業利益	120	230	107	230	▲12	+0	▲10.7%	+0.0%
営業利益率	7.5%	7.4%	6.8%	7.3%	-	-	-	-
経常利益	133	255	122	245	▲10	▲10	▲8.0%	▲3.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	95	220	97	220	+2	+0	+2.3%	+0.0%
為替レート	¥145/USD ¥155/EUR	¥145/USD ¥155/EUR	¥145/USD ¥155/EUR	¥149/USD ¥161/EUR				

為替影響額 (1円円安の年間影響額)

	USD	EUR
売上高	+6.5億円	+3億円
営業利益	+2億円	+1.5億円

最後に、連結業績予想につきまして一部修正をしておりますので、ご説明をさせていただきます。

まずは、通期の連結業績予想でございますが、売上高を3,135億円とし35億円の上方修正、営業利益は230億円を据え置き、経常利益は10億円下方修正しております。

親会社株主に帰属する当期純利益は、下期でも追加の投資有価証券売却益の計上等を予定しており、220億円を据え置いております。

2024年度 下期及び通期連結業績予想 セグメント別

(単位：億円 / %：営業利益率)

	2024年度 5/13予想		2024年度 11/11予想		増減額		増減率	
	下期	通期	下期	通期	下期	通期	下期	通期
売上高								
時計事業	895	1,715	877	1,725	▲17	+10	▲1.9%	+0.6%
工作機械事業	370	730	376	750	+6	+20	+1.6%	+2.7%
デバイス事業	212	425	202	410	▲9	▲15	▲4.7%	▲3.5%
電子機器他事業	113	230	113	250	+0	+20	+0.7%	+8.7%
合計	1,590	3,100	1,569	3,135	▲20	+35	▲1.3%	+1.1%
営業利益								
時計事業	103 (11.5%)	205 (12.0%)	96 (11.0%)	191 (11.1%)	▲6	▲14	▲6.7%	▲6.8%
工作機械事業	38 (10.3%)	66 (9.0%)	35 (9.5%)	66 (8.8%)	▲2	+0	▲5.8%	+0.0%
デバイス事業	4 (1.9%)	8 (1.9%)	0 (0.1%)	6 (1.5%)	▲3	▲2	▲95.3%	▲25.0%
電子機器他事業	7 (6.2%)	15 (6.5%)	6 (5.6%)	30 (12.0%)	+0	+15	▲9.3%	+100.0%
消去又は全社	▲32	▲64	▲31	▲63	+0	+1	-	-
合計	120 (7.5%)	230 (7.4%)	107 (6.8%)	230 (7.3%)	▲12	+0	▲10.7%	+0.0%

19

下期の業績予想につきまして、事業別に修正のポイントをご説明させていただきます。

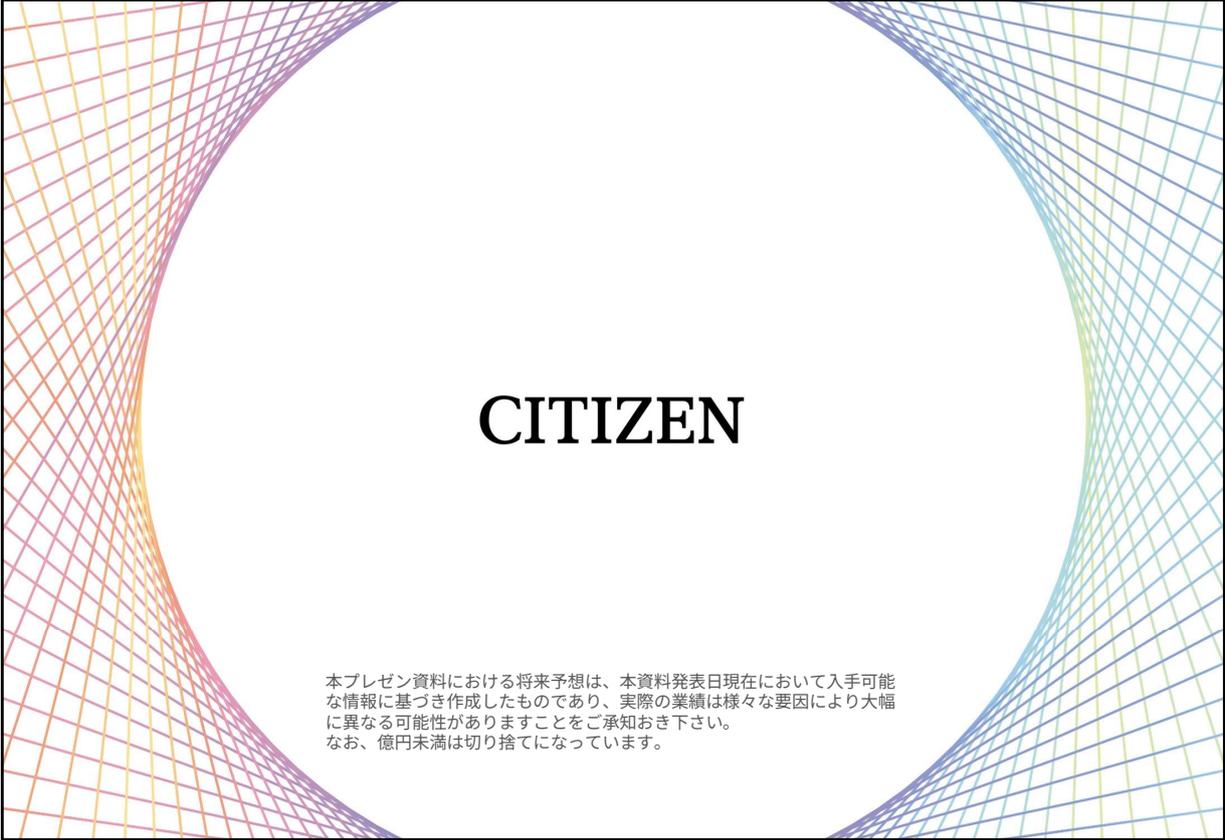
時計事業の状況は先ほどご説明した通りでございますが、下期におきましてもムーブメント販売において、アナログクォーツムーブメントの需要が想定したほど回復していないことに加えまして、機械式ムーブメントも欧米向けは堅調に推移するものの、中国顧客向けの需要が低迷しております。

完成品におきましても、中国を含むアジア地域が想定以上に低迷していると判断をしまして、下方修正しております。これにより、結果として昨年実績とほぼ同様の業績見通しとなりました。

工作機械事業は、上期の地域別受注動向を反映し、下期の営業利益率を見直し、微調整しております。

デバイス事業につきましては、自動車部品の回復が想定よりも鈍く、小型モーターも顧客の在庫調整等があり、売上の伸びが見られていないことから、下方修正いたしました。

電子機器他事業は、上期の業績は大きく上振れしましたが、下期は当初の計画通り据え置いております。



CITIZEN

本プレゼン資料における将来予想は、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は様々な要因により大幅に異なる可能性がありますことをご承知おき下さい。
なお、億円未満は切り捨てになっています。

説明は以上でございます。